



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

九州支部の活動

はじめに

コロイドおよび界面化学部会・九州支部では、九州・中国・四国地区の研究者や学生が会してコロイド・界面化学の基礎から先端研究までを学び、自身の知見を深め、情報を共有することを目的として毎年「九州コロイドコロキウム」を開催しています。昨年度は、福岡女子大学の池田宜弘先生のお世話で、令和7年11月22日(土)に、福岡女子大学において開催されました。

九州コロイドコロキウム 2025

九州支部長の新留康郎先生によるご挨拶の後、4件の招待講演が行われました。まず最初に佐賀大学・理工学研究科の徳留嘉寛先生より「コロイド科学が描く次世代スキンケア：イオンコンプレックスを駆使した巨大分子デリバリー」と題して、ヒアルロン酸ナノ粒子の皮膚浸透メカニズムの分子レベルでの理解などスキンケアに関わるコロイド化学の最新の知見についてお話をいただきました。コスメスクリプトコンサルティングの岡本亨先生からは、「 α 型水和結晶を用いたナノエマルション—界面物性と化粧品価値の創出—」として、エマルションの分散安定性の向上に応用されている α ゲ

ルの物性や調製法、ナノエマルション化を利用したクリーム処方から化粧水を創る手法など基礎から応用面への展開について詳しくお話を聞くことができました。次に九州工業大学・大学院情報工学研究院の植松祐輝先生からは、「微細気泡の界面科学」と題して、水中に生成したナノバブルの光散乱測定を基に、水中に含まれていた不純物のナノバブル界面への吸着・濃縮および凝集挙動に関して界面物理化学的な解析結果について紹介されました。招待講演の最後は、九州大学・基幹教育院の松尾美香先生から「溶媒分子の組み合わせによって制御される分子認識現象：液体の統計力学理論による混合比依存性の解析」と題して、ホスト・ゲスト相互作用による分子認識現象に及ぼす周りの溶媒分子の組み合わせによる効果を、溶液の統計力学的計算と分子シミュレーションにより解析した最新の知



ポスター賞の授与式

見についてお話をいただきました。

これら招待講演に引き続いて、学生による15件のポスター発表が行われ、闊達な質疑・応答が繰り広げられました。

また、コロキウム参加者の投票により優秀ポスター賞が選出され、閉会式の前に表彰式も執り行われました。閉会後は大学近隣の居酒屋で懇親会が催され、教員、学生の間でさらに交流を深め、非常に楽しく有意義な時間を共有することができました。

九州コロイドコロキウム 2026 の開催について

令和8年度の九州コロイドコロキウムは、招待講演者として、中田聡先生(広島大学)、懸橋理枝先生(大阪技術研)、村上良先生(甲南大学)、吉田健先生(徳島大学)、越山顕一朗先生(徳島大学)をお迎えし、徳島大学の松木均先生のお世話によって12月12日(土)に開催することが決まっております。詳細につきましては九州コロイドコロキウムのウェブサイト(<https://sites.google.com/view/dcsckbkcc2026/>)をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

[2026年度コロイドおよび界面化学部会
九州支部・支部長 瀧上隆智(九州大学)]

© 2026 The Chemical Society of Japan